

有限会社 セ・ラ・セゾン

革新的サービス

一般型

廃校を拠点とした地域産物による洋菓子の開発 洋菓子作りから、串本町の地域活性化に取り組む

事業内容 廃校になった小学校を利用したユニークな店舗 地元産フルーツにこだわったお菓子の開発・販売

同社の社名および店舗名である「C'est la Saison! (セ・ラ・セゾン)」とは、「今が旬!」という意味のフランス語であり、その名の通り“旬”のフルーツを活かした洋菓子を製造・販売している。神奈川県相模原市に本店があり、和歌山県東牟婁郡串本町(串本養春店)にも店舗を構えている。オーナーシェフの清水康生氏が串本町の出身であり、串本町を活性化させたいとの思いから同店をオープンさせた。ちなみに清水氏は、「串本ふるさと大使」も務めている。

同店に並ぶ洋菓子は、串本町で収穫されたフルーツを

用いたケーキが看板商品となっている。古座川の柚子・紀伊大島の金柑を用いたロールケーキや串本のブルーベリーを用いたショートケーキなど、地元で採れる旬のフルーツにこだわっている。オーナーシェフ自らが農家に足を運び、市場に流通しないフルーツを使うこともあるそうだ。地元住民から愛されるだけでなく、週末には田辺市や新宮市から多くの人が訪れる。

串本養春店は、2011年に廃校になった養春小学校を再利用したユニークな店舗で、洋菓子の製造は調理室で行われ、日々新商品の開発も進められている。

補助事業 地元産品を使った土産物づくり 旧小学校の調理室に設備投資

串本町は、吉野熊野国立公園、橋杭岩などの自然遺産をはじめ、ダイビングなどの体験型観光ができることでも有名で近畿圏内から例年多くの人々が訪れる。それにも関わらず、地元の産品を使った注目を引くような土産物がなく、地域からは商品の開発を求める声も上がっている。

また、串本町は、全国的には知名度は低いものの、柑橘類では金柑、ポンカン、夏みかんや柚子など、自然農法や有機栽培によるこだわりの栽培方法で、品質の良いフルーツが収穫できる。有名産地のものと比較しても味・安全性において優れている。

このような状況を踏まえ、地元(串本町・隣町の古座川町)のフルーツを用いたお菓子の新商品開発を行い、串本町のブランドで商品を販売していくこととなった。しかしな

がら、旧小学校の調理室の設備だけでは不十分で、オープンや冷蔵庫・ミキサーなどの製造設備一式を新たに導入する必要があった。さらに、店舗で冷蔵陳列販売するためのショーケースも必要であった。



有限会社 セ・ラ・セゾン 和歌山串本養春店

代表取締役 清水 康生
〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27 旧養春小学校内
TEL: 0735-67-7120 FAX: 0735-67-7121
URL: http://cest-la-saison.com

(業種)洋菓子製造業
(創業)2000年
(資本金)3,000千円
(従業員)25人(全体)

成果

地元産のロールケーキを販売 農家の方との関係も深まってきている

設備導入後は、「特産品農家開拓(仕入先開拓)」→「試作開発」→「試食会議」の順で積極的に試作開発を進めた。具体的には、串本町、古座川町を代表する果実を使ったロールケーキの試作開発を進め、冷凍でも解凍しても美味しいロールケーキにすることを目指した。

その結果、農家の方やお客や従業員の意見を取り入れながら試行錯誤することで商品化に漕ぎ着けることができた。夏は半解凍でアイスケーキとしても美味しく食べられる商品に仕上がし、概ね好評価を得られた。

現在では、古座川の柚子ロールケーキ、紀伊大島の金柑ロールケーキ、重ね山のぼんかんロールケーキの知名度も上がってきている。商品化する地元フルーツにも広がりが出てきており、農家の方との関係も深まってきている。

農家の方とは将来について意見を交わすことも増えて

きたという。情報交換の中でお互いの次の展開が明確になることもある。

「今後も農家の方とは持ちつ持たれつの良い関係を築いていきたいですね」と、串本養春店店長の中野博昭氏は話す。



今後の展開

串本町ならではの強みを活かす “養春小学校”店舗を人の集まる交流の場へ

今回の補助事業によって商品の販売に結びつけることで、人数としてはそれほど多くはないものの、地元の若い人の雇用を生み出すことができた。過疎化に歯止めをかけ、串本町ならではの強み、地域の良さを上手く活かすことにより、Iターン・Uターン者の増加も図っていきたいとしている。

また、農家の高齢化も進んでおり、後継の問題を抱えている農家も少なくない。同社の思いとしては、地域の農産物を使って世界に誇れるお菓子を作ることにより、農業の

活性化に貢献し、若い人の就農を様々なかたちでサポートしていきたいと考えている。

さらに、地域が抱える問題として、小学校の廃校とともに老若男女が集まって楽しめる場所が少なくなりました。最近の取り組みとしては、地域の人を招いてイベントを開催することも試みている。体験型イベントによって地域外の人々も呼び集め、交流の拡大も促進している。まずは、“養春小学校”を人の集まる場所にし、お菓子作りから地域活性化を行なっていく意向である。

